

テーマ 曼荼羅

課題やレポート等で真言学に初めて取り組む際にはどのような資料が有効なのでしょう。一例として曼荼羅をテーマとし学んでおくべき資料・ツールをあげました。みなさんの学びの参考にしてみてください。

本を探するとき、こんなキーワードで探してみよう

弘法大師、真言密教、『大日経』、胎蔵曼荼羅、『金剛頂経』、金剛界曼荼羅 など

図書館にある資料の一例

参考図書 ☆テーマについて調べたり、基本的な事柄を把握したりするときに便利！3F 和参考書は貸出できませんので注意してください。

書名・著者・出版社など	所在場所	請求記号	資料ID	ポイント
『密教大辞典』密教辞典編纂会 編, 法蔵館, 1983.2	8号館 3F 8和参考書	188.303/M1/3	50+0003887	真言密教に関わる用語や人名について最も詳しく記載している辞典。日本の真言宗学の長い伝統の中で研究されてきた成果が取り入れられ、経典・儀軌・註釈書などの記述に依った正確な記述が特徴。ただし、旧仮名遣いであり、文章表現も若干難解である。
『密教辞典』佐和隆研 編, 法蔵館, 1975.2	8号館 3F 8和参考書	188.303/S2/1B	50+0003893	『密教大辞典』と同様、真言密教に関わる用語や人名を調べる上で有効な辞典。『密教大辞典』より現代仮名遣いなので比較的読みやすい。
『仏像図典』佐和隆研 編, 吉川弘文館, 1990.12	8号館 3F 8和参考書	187.1/S1/1	50+0006063	項目ごとに諸尊の画像や曼荼羅の図版の代表作例が載っていて、典拠（経典・儀軌）を踏まえた詳しい解説がされている。尊像や曼荼羅について調べる場合、まずこの図典を紐解くことを勧める。
『真言宗小事典』福田亮成 編, 法蔵館, 1987.8	B1A 和閉図書	188.303/H1/1B	50+0019018	真言宗の事項についてコンパクトにまとめられた書である。通読して基礎知識を身につけるには最適といえる。
『曼荼羅大全』マルティン・ブラウエン 著 森雅秀 訳, 東洋書林, 2002.9	2F 和開図書	188.97/BM-Z	10+0132345	本書は曼荼羅の作り方や意味について解説した画期的な書である。内容としては、チベットの曼荼羅が主であるが、日本との比較する際の構造理解への知識取得に有用である。また、チベットで実際に曼荼羅を造立する写真を載せており、文献と写真資が充実している点は特徴的である。

入門書 ☆基礎を学んでみよう

書名・著者・出版社など	所在場所	請求記号	資料ID	ポイント
『曼荼羅入門』 福田亮成 著, ノンブル社, 1992.9	B1A 和閉図書	188.355/HR-M	10+0002784	金剛界・胎蔵界の曼荼羅について専門的な説明をできるだけ避け、諸仏の配置や関係性を解説した分かりやすい書である。
『曼荼羅の鑑賞基礎知識』 頼富本宏 著, 至文堂, 1991.10	8号館 4F 8号館和図書	187.2/YM-M	00+0000392	本書は、初心者を対象としたもので、曼荼羅の鑑賞の仕方について解説した綱要書。両界曼荼羅の概念や、成立と流伝、構造などを説明し、他種の曼荼羅についても言及している。
『曼荼羅:色と形の意味するもの』 松長有慶 編, 朝日カルチャーブックス 1983.3	B1A 和閉図書	187.2/M5/1	50+0017137	曼荼羅について、密教研究者・哲学者・医者・グラフィックデザイナーなどそれぞれの専門家9名が各講座で話した内容を一冊にまとめたもの。曼荼羅のアウトラインを把握しようとする人には絶好の手引き書となろう。
『両界曼荼羅 (日本の美術 NO432)』東京国立博物館, 京都国立博物館, 奈良国立博物館 監修, 至文堂 1966.5-2011.10	8号館 4F 8号館和図書	057.0/N3	20+0025806	本書は日本で有名な曼荼羅を多く取り上げ解説をしている。前半は真言祖師像・両部大経感得図・高雄曼荼羅・東寺版・醍醐寺版・小島寺版等について説明している。後半には東寺の立体曼荼羅の解説等がある。

専門的な図書 ☆より深く学ぶにはこちらを読もう！

書名・著者・出版社など	所在場所	請求記号	資料ID	ポイント
『梅尾祥雲全集 第4巻(曼荼羅の研究)』 高野山大学密教文化研究所 編, 臨川書店,1982.2	8号館 4F 8号館和図書	188.308/T4/1-4	50+0019855	初版は1927年刊行、後に梅尾祥雲全集に収録された。曼荼羅についての学術的な研究の最初の金字塔と言える。真言密教の伝統的な曼荼羅の見方を学ぶことができる。また、曼荼羅の諸仏と經典に説かれている内容とを比較し、配置や尊容の相違点等について詳細に研究した著作である。
『那須政隆著作集 第5巻(現図両界曼荼羅講伝)』 宮坂宥勝 [ほか]編, 法蔵館, 1997.10	8号館 4F 8号館和図書	188.308/NS-N/5*	10+0052967	初版は1980年刊行、後に那須政隆著作集に収録された。題名に「講伝」とあるように、真言宗の伝統的な解釈方法や文献の取り扱い方を述べたものである。真言宗の宗徒はこれをもとに曼荼羅を行法において観想するものであり、必読の書と言える。本来であれば、阿闍梨より伝授してもらふことを習いとす。
『両界曼荼羅の智慧』 石田尚豊 著, 東京美術, 1979.5	B1A 和開図別	188.355/I1/2	50+0056971	本書は金剛界・胎蔵界の曼荼羅を中心に解説したものである。両部曼荼羅の世界・両部曼荼羅の伝承・図版写真・索引といった構成になっている。両部曼荼羅の構成を知る上で必携の書である。
『密教仏の研究』頼富本宏 著, 法蔵館, 1990.2	8号館 4F 8号館和図書	187.1/Y6/1	50+0016977	頼富本宏氏の博士論文を刊行したもので、密教の仏について、文献資料と美術資料の二方面より検討した著作である。文献資料篇では、密教以前、初期と中期の密教經典、後期の密教經典に区分されて検討している。美術資料篇では、インド現存の密教系遺跡・遺品を中心として研究している。
『インドにおける曼荼羅の成立と発展』 田中公明著, 春秋社, 2010.2	2 F 和開図書	187.2/TK-I	10+0238996	本書は田中公明氏の博士論文を刊行したもので、曼荼羅の成立について、インドの曼荼羅に関する文献資料をもとに、幅広い検討を加えている。さらに国内に留まらず、海外の先行研究にも目を向けており、研究動向についても言及している。

学術雑誌 ☆専門的な研究や最新動向を知るなら、雑誌を見てみよう！巻号数がたくさんある場合は、読みたい論文・記事を特定してください。

誌名・発行元	所在場所	請求記号	所蔵巻・所蔵年	ポイント
『密教図像』密教図像学会	2 F 和開雑誌	051.8/M13	1-19, 21-33<1982-継続中>	図像学を専門にする研究者たちにより執筆された雑誌論文。
『密教学研究』日本密教学会	2 F 和開雑誌	051.8/M6	1-47<1969-継続>	密教学を専門にする研究者たちにより執筆された雑誌論文。

データベース・関連 Web ページ

☆専門的な情報を探すときに便利です。データベースで探した本や論文が図書館にあるか、あらためて OPAC (蔵書検索) や CiNii で調べましょう

図書館の OPAC・データベースについては Student's Handbook2022 内の『図書館活用ガイド 2022』P129~P134 を参考にしてみよう！

●印のデータベース・Web ページは、図書館 HP にリンクがあります

データベース・Web ページ名	URL	ポイント
●INBUDS(インド学仏教学論文データベース)	http://www.inbuds.net/jpn/preview.html	仏教学全般にわたって論文を検索できます。
●CiNii Research	http://ci.nii.ac.jp	仏教学以外の分野の論文も検索できます。
国立国会図書館デジタルコレクション	http://dl.ndl.go.jp/	文献によっては国立国会図書館内のみのネットワークで閲覧可能なものがある。

※上記 URL は 2022 年 9 月現在のものです

その他の資料

☆仏教学全体に共通する基礎資料として、以下も参考にしましょう。

- ・大正新脩大蔵経（曼荼羅は「図像部」を参照）
- ・日本大蔵経
- ・大日本佛教全書
- ・南伝大蔵経

☆各宗派ごとの基礎資料は以下が有用です。

真言宗

- ・真言宗全書
- ・続真言宗全書
- ・弘法大師全集
- ・弘法大師空海全集
- ・興教大師全集

天台宗

- ・天台宗全書
- ・続天台宗全書
- ・天台大師全集
- ・傳教大師全集

浄土宗

- ・浄土宗全書